

1. 調査の背景・目的・方法

1) 調査の背景

○商店街の基盤を揺るがず問題への対応

大田区の商店街では店主の高齢化や後継者不足、売上や集客力の低下など、基盤を揺るがず問題に直面しており、急激に進む少子高齢化や、インターネット販売などの購買環境の変化に合わせて、商店街自らの変化が求められている。

○地域との共創による商店街のにぎわい創出

大田区では平成 20 年 10 月に「大田区基本構想」を策定し、その中で『地域力が区民を支え、未来へ躍動する国際都市 おおた』を具体的な都市像として掲げている。商店街はこのような都市像を実現する上での重要な担い手である。地域住民、企業、学校などと価値観を共有し、変化する地域社会に応じて事業を創造する店舗が集積し、にぎわいを生み出す商店街への変化が必要である。

2) 調査の目的

商店街や消費者等の状況を分析し、地域特性に合った具体的な施策に結び付けていくことを目的に、本調査を実施した。さらに大田区商店街調査の分析を行い、未来志向の商店街への変化を区、商店街が連携して取り組むために、平成 27 年度から実施する「モデル商店街事業」の事例案を検討することを目的とした。

3) 調査の方法

本調査では、大田区の商業の供給者側（商店街など）の状況と、事業環境として消費者側（区民・区外からの来街者など）からみた商店街の評価等を把握するため、供給者・消費者の双方に対してアンケート調査を実施した。

○供給者（商店街・商店等）を対象にした調査

供給者側は、商店街のエリアとしての活動を統括する代表者を対象にしたアンケート（商店街調査）と個別の商店主を対象としたアンケート（商店主調査：個店調査）の双方を実施した。商店街・商店がそれぞれ抱える課題や協調や連携した動きなど、これからの商店街と商店のにぎわい・つながりの創出への対応・ニーズやポテンシャルの拡大等を検討した。

○消費者（大田区民・大田区外からの来街者・訪日外国人等）を対象にした調査

消費者側は、大田区民を対象にした調査（大田区民調査）と、大田区外からの来街者を対象にした調査（区外来街者調査）を実施し、消費行動実態や商店街のにぎわい・つながりの創出へのニーズ等を把握した。また、羽田空港の国際化に伴う大田区産業のポテンシャルを確認するため、羽田空港において外国人来街者を対象にした調査（外国人来街者調査）も実施した。

○ヒアリング調査

供給者・消費者を対象にした各種調査をもとに、モデル商店街の候補事業を検討することを目的に、先行事例に取り組んでいる事業者やモデル商店街の担い手になりうる事業者等へのヒアリング調査を実施した。

本調査で実施した調査内容と目的・手法

供給者側	①商店会調査：団体調査（アンケート）	<p>目的：「地域力」を体現する商店街としての内部環境、外部環境の認識を把握した。今後の戦略づくりに向けて意欲がある「キーパーソン」を発掘するとともに、モデル商店街の候補を抽出した。</p> <p>手法：空き店舗活用や地域連携・モデル商店街の候補事業に関する設問を中心に調査票を設計。あわせてヒアリングを実施することで、アンケートだけで把握が難しい内容（地域活動団体との連携や空き店舗の活用方針・キーパーソンの有無等）を把握した。</p>
	②商店主調査：個店調査（アンケート）	<p>目的：「地域力」の一翼を担い、地域活性化を下支えする「強い個店」を把握するとともに、今後の戦略づくりに向けて意欲がある「キーパーソン」を発掘した。</p> <p>手法：他自治体での調査の知見を活かして、新たな調査票の内容を構築した。</p>
消費者側	③大田区民調査（インターネットアンケート）	<p>目的：大田区内在住者の商業へのニーズと購買行動を把握した。</p> <p>手法：他自治体での調査の知見を活かして、新たな調査票の内容を構築。インターネットアンケートシステムを用いて、大田区内の約1,000サンプルに調査票を配信した。</p>
	④区外来街者調査（街頭調査）	<p>目的：大田区外在住者の大田区内への来訪目的や商業・サービス業に対するニーズを把握した。</p> <p>手法：大田区外から区内の繁華街を訪れる区外からの来街者を対象に、街頭での聞き取り調査を実施する。なお本調査は大田区内の中でも区外から来街者が多いと思われる蒲田駅周辺・大森駅周辺・大岡山駅周辺を対象とした。</p>
	⑤外国人来街者調査（空港調査）	<p>目的：日本を訪れる訪日外国人の来訪目的や商業・サービス業に対するニーズを把握した。</p> <p>手法：羽田空港における聞き取り調査を通じて、訪日外国人観光客の商業・観光ニーズを把握した。</p>

2. 統計データ等による居住者分析

1) 調査方法

大田区内に住む消費者の状況を分析するため、既存の統計データ等を活用した商圈分析を、大田区内の町丁目を対象に行った。

■使用した統計データ

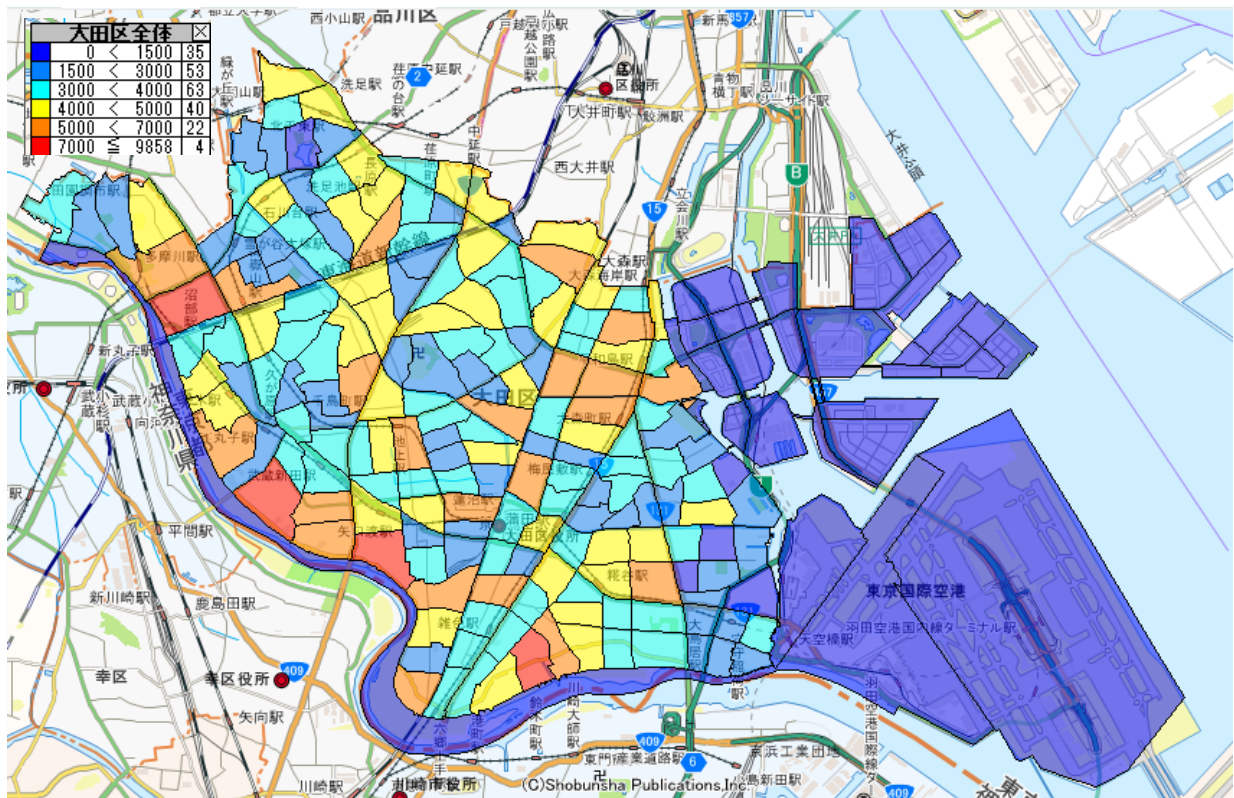
駅からの等距離圏の地域特性は、国勢調査や将来推計人口・世帯数などの人口・世帯に関する町丁目データと、日銀資金循環統計などをもとに弊社で独自に推計を行った居住者の金融資産に関する町丁目データを用いて行った。

調査項目	資料
区内の町丁目・各駅 1km 圏内の人口・世帯に関連するデータ（年齢別／世帯類型別人口など）	➤ 2010年国勢調査（総務省）

2) 調査結果

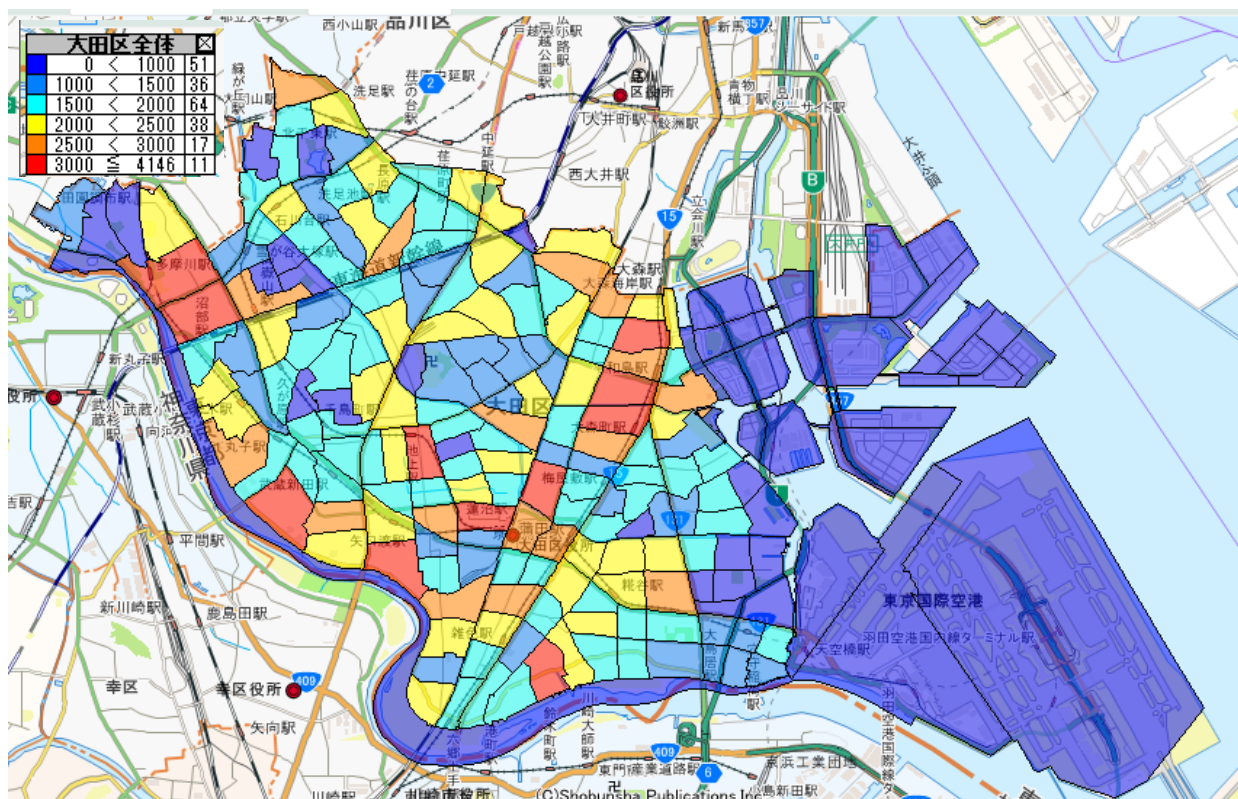
■人口総数

鉄道駅の周辺で人口が多く分布していることが分かる。



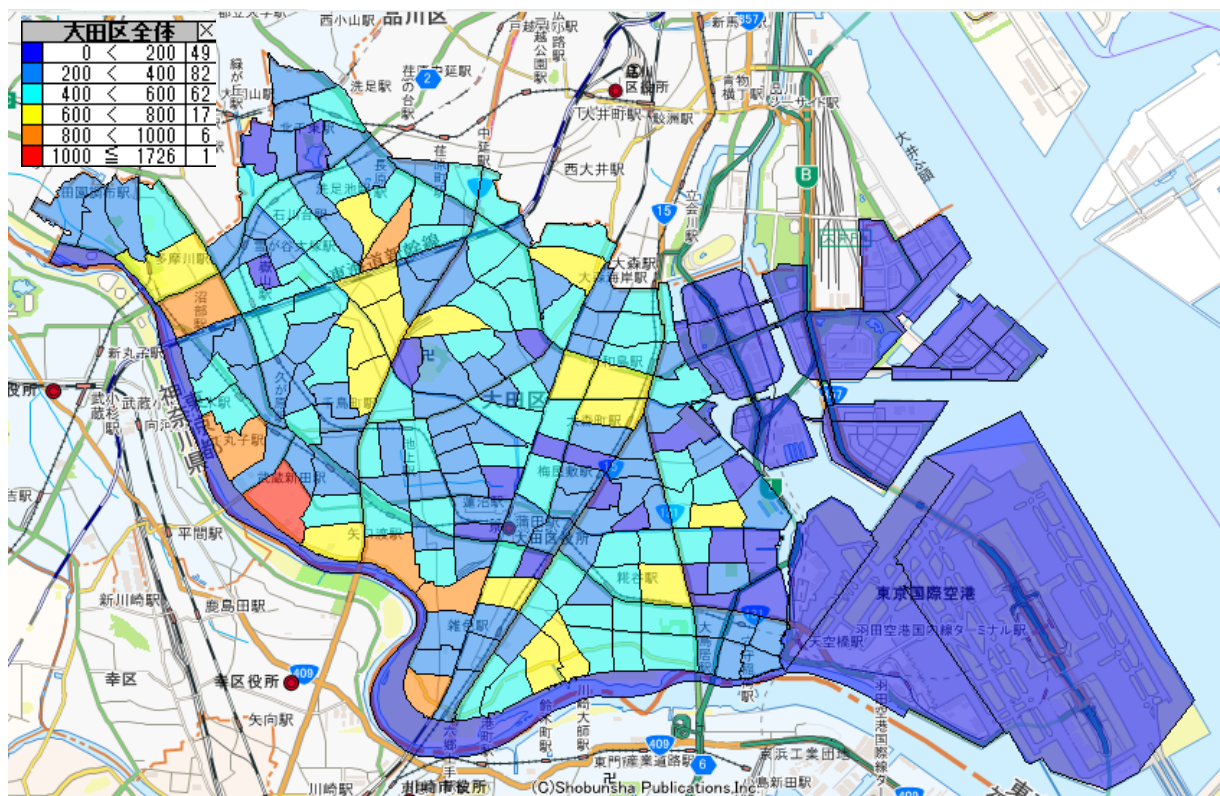
■世帯数

鉄道駅の周辺で人口が多く分布していることが分かる。



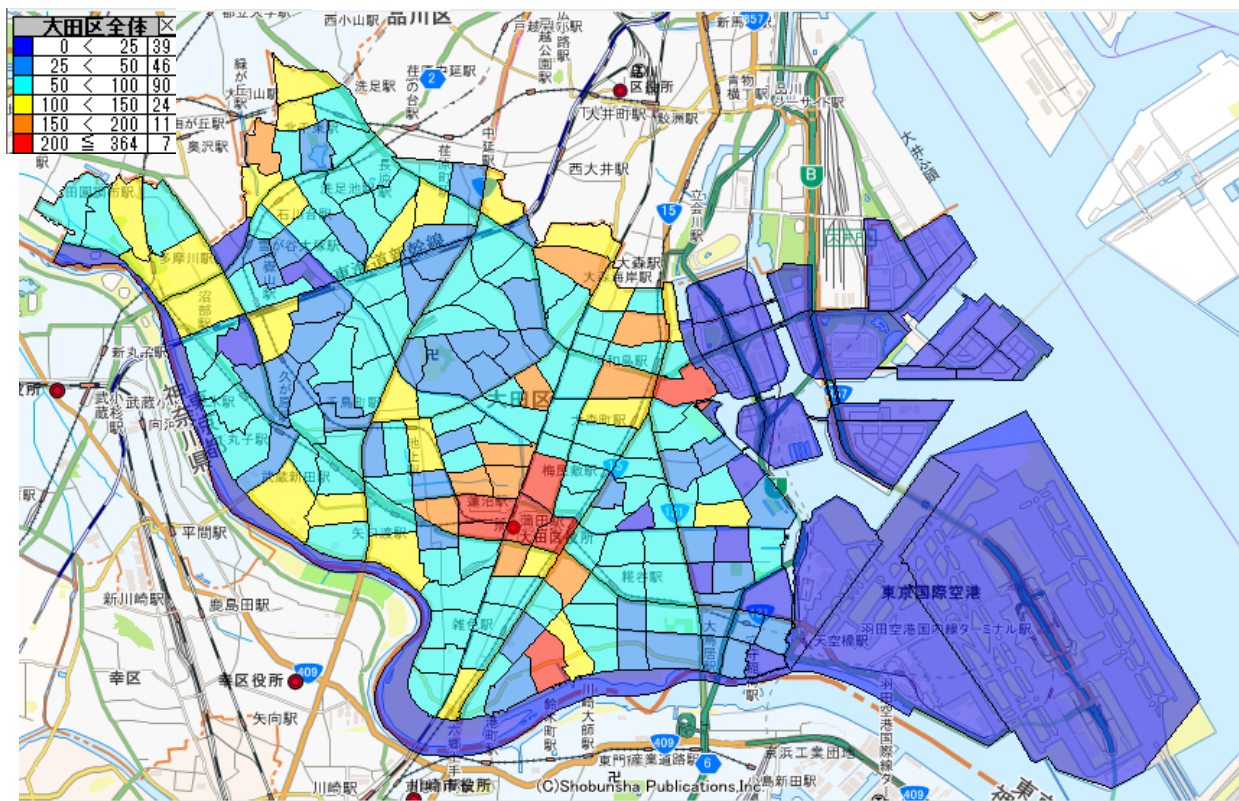
■15歳未満人口

繁華街から一定の距離を置いたエリアや集合住宅の多い多摩川沿いに多く分布していることが分かる。



■外国人人口

大田区の中心市街地である蒲田駅周辺で多く分布していることが分かる。



■単身世帯

J R線と京急線に沿ったエリアで多く分布していることが分かる。

